

4) 在宅医療に関する地域住民への普及啓発

・看取りのパンフレット作成と配布

1950年頃は自宅での看取り率が80%以上あったが、最近では自宅での看取り率は僅か十数%。一方病院での看取り率は80%を超える時代となった。世界を見渡してもこれほど病院での看取り率が高い国は他にはなく、おそらく人類史上、最も病院での看取り率が高いのが現在の日本社会である。今では自宅で看取った経験のある人が非常に少なくなっている。それは医療従事者も同じで、食べられなくなったら入院し胃瘻や点滴をし、亡くなるときは入院する。それが当たり前の社会になっている。病院で看取ることが当たり前になっている社会で、自宅で看取ることは大変な労力が必要である。本人や家族が自宅での看取りを希望されても親戚がやってきて「なぜ点滴をしないのか」「なぜ入院させないのか」というケースはよくある。自宅で看取るためには十分な説明、看取りの変化や対応についてあらかじめ説明しておくことが必要で、さらに24時間の対応や状態にあわせての訪問も求められる。自宅での看取りには「今後どういう変化をするか」「どういう対応をすればよいか」をあらかじめ理解していただくことが大切なので、当院では看取りのパンフレットを作成し配布している。パンフレットを用いることで、説明したことを後でゆっくり読んで理解したり、不安になった時に取り出して読んだり、説明時にいなかった家族や親戚に読んでもらう事ができる。家族が看取りへの覚悟ができ、亡くなられた後に「パンフレットの通りに変化して亡くなりました。先生の言ったとおりです」

と言って頂くことも多い。自宅での看取りには欠かせないツールであり、連携拠点事業でも看取りのパンフレットを作成し、地域で利用してもらおうと考えている。